

令和4年度第3回庄原市特別支援教育研修会

令和4年9月16日（金） 庄原市ふれあいセンター

特別支援教育の校内支援体制の中核を担う特別支援教育コーディネーターや特別支援学級担任の資質の向上を図るとともに、通常の学級における特別な支援を必要とする児童生徒のアセスメントを視点に据えた授業改善を推進することを目的に、研修会を行いました。

**【講話】「通常学級における児童生徒のアセスメントとユニバーサルデザインの工夫
～特別支援教育の視点に基づく授業づくり～」 特別支援教育士スーパーバイザー 山田 充**



【講話から】

- ・通常学級における児童生徒のアセスメントについて、一人一人の特性をしっかりと把握し、そこから個への支援の方法を見いだす必要がある。
- ・授業におけるユニバーサルデザインの重点として、焦点化・視覚化・共有化の3点がある。
- ・ユニバーサルデザインの授業づくりのステップは、①学級の学習困難の子供の要因を考える②その困難の要因に即した学習方法や展開を考える③みんなに共通で提示する形で授業を組み立てる、である。教科の特質を踏まえた展開の工夫、発問の工夫、子供の思考を促す教材研究が必要となる。
- ・普段の授業が分かりやすい授業になることで、子供たちの達成感や学力向上につながっていく。

【参加者の振り返りより】

- アセスメントの重要性を前回の研修に続き、改めて確認できた。ユニバーサルデザインの授業づくりについての具体的なイメージをもつことができた。とても分かりやすく、すぐにでも実践に取り入れたいと思った。今後、学習意欲が低下している生徒にどのように対応すればよいか考えていきたい。
- 「授業のユニバーサルデザインは分かりにくさを感じる子供が分かりやすいように教えるとみんなが分かりやすい」ことが大原則だと分かったが、易しく教えるわけではないと聞き、気を付けなければならないと思った。
- どのように支援すればよいかを考える前に、まずはよく観察しその子の困り感の原因を明確にしていくことの大切さを感じた。授業におけるユニバーサルデザインについて、学習指導要領を再度見ていくことは、校内で研修すべき内容であると感じた。児童が多様な方法から選択できるような工夫を授業内で取り入れていくことができるよう、全職員で考えていきたいと思った。また、自身における授業のアセスメントの必要性も感じた。児童が自覚的にできるよう、まずは学び方(方法)も教えていきたい。
- 通常学級の授業においても、特別支援教育の視点に基づく指導や支援が必要であると改めて感じた。授業実践の交流の際には、具体的な支援の内容だけでなく、どの児童のための支援を意識しているのかについても交流していきたいと感じた。
- 小・中学校での教育についての内容だったが、通常学級の中にいる気になる子に着目し配慮していくという点では参考になる部分が多くあった。保育所でもどの子にも分かる活動、個別のつまずきへの配慮をしていきたい。最後の質問にあった、年度はじめの子供の情報については、保小連携の意味でも共有できればと思う。